

古文ドリル：「ん」（む・らむ・けむ等の口語形）100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「ん」の正体

古文の「ん」は、中世以降に登場した「む・らむ・けむ」などの口語化形。

「ん」の正体	意味
む → ん	推量・意志（～だろう・～よう）
らむ → らん	現在推量（今～だろう）
けむ → けん	過去推量（～たであろう）
ぬ未然+む → なむ → なん	確実な推量・意志（～してしまうだろう）

→ 中世以降の文章（軍記物語・狂言・浮世草子）に頻出。

識別の鉄則

1. 直前の活用形 で「ん」の正体を判別
2. 未然形+ん → ん系（推量・意志）
3. 終止形+らん → らむ系（現在推量）
4. 連用形+けん → けむ系（過去推量）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは 試験本番で3秒で答えを出す ための実戦テクニックです。

コツ① 「ん」を見たら 直前2文字 をまず見る

- 「らん」「りん」 → らむ系（現在推量「～ているだろう」）
- 「けん」 → けむ系（過去推量「～たであろう」）

- 「なん」→ なむ系（完了「ぬ」未然+推量「む」or 願望「なむ」）
- 上記以外の単独「ん」→ 多くは「む」の口語形（推量・意志）

コツ② 訳語は「だろう／よう」を当ててみる

- 「行かん」「見ん」→ 「行こう／見よう」と訳せれば意志、「行くだろう／見るだろう」なら推量。
- 「ん」が文末で1人称主語なら意志、3人称主語なら推量、というのが原則。

コツ③ 時代背景で「ん」「らん」「けん」を区別

- 平安期の文章なら「む／らむ／けむ」が原形で出るので、「ん」表記が出てきたら **中世以降の文章** と判断。
- 軍記・狂言・近世散文では「ん」表記が当たり前。

コツ④ 「なん」は2パターンに分かれる

- 未然形+なん → **願望の終助詞「なむ」**（～してほしい）
- 連用形+なん → **完了「ぬ」未然+推量「む」**（きっと～だろう）
- 直前の活用形が決め手。

試験本番でのチェック順序

1. 「らん」「けん」「なん」の3パターンに当てはまるかチェック
 2. どれにも当てはまらなければ単独「ん」= **「む」の口語形**
 3. 訳語「～だろう／～よう」を当てて推量か意志かを定める
 4. 主語が1人称か3人称かで最終確認
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「らん」を全部「らむ」と決めつけない → 「あらん」は「あら+ん」でラ変未然+むの可能性あり
- 「なん」を **係助詞「なむ」** と取り違える → 文末か途中かで判断（途中なら係助詞、文末なら完了+推量 or 願望）
- 中古以前の文章で「ん」表記は基本出ない → 出典が中世以降か確認

採点表

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30

- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

Q1. 「ん」を識別せよ。

我れ行かん。

答え：む（推量・意志）の口語形 解説：「行か」未然＋「ん」（＝む）。「私は行こう」。

Q2. 「らん」を識別せよ。

都に雪降らん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「降る」終止＋「らん」（＝らむ）。「都に雪が降っているだろう」。

Q3. 「けん」を識別せよ。

古代の人、いかに苦しみけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「苦しみ」連用＋「けん」（＝けむ）。「どんなに苦しんだであろう」。

Q4. 「なん」を識別せよ。

雨降らん。

答え：願望（他者）「なむ」の口語形 解説：「降ら」未然＋「なん」（＝なむ）。「雨が降ってほしい」。

Q5. 「ん」を識別せよ。

君も来んかし。

答え：む（勧誘）の口語形 解説：「来」未然＋「ん」＋念押し「かし」。「あなたも来ようよ」。

Q6. 「らん」を識別せよ。

なぜ花散るらん。

答え：らむ（原因推量）の口語形 解説：「なぜ」＋「らん」。「どうして花が散るのだろう」。

Q7. 「けん」を識別せよ。

いかにありしけん。

答え：けむ（過去原因推量）の口語形 解説：「いかに」＋「けん」。「どうしていたのだろう」。

Q8. 「ん」を識別せよ。

早く帰らん。

答え：む（意志）の口語形 解説：「帰ら」未然＋「ん」。「早く帰ろう」。

Q9. 「らん」を識別せよ。

故郷の人、今いかにあらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：ラ変「あり」終止形「あり」＋「らん」（「らむ」の口語形）。「故郷の人は今ごろどうしているのだろう」。

Q10. 「けん」を識別せよ。

昔の人、何思ひけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「思ひ」連用＋「けん」。「昔の人は何を思ったのだろう」。

Q11. 「ん」を識別せよ。

我れ仕うまつらん。

答え：む（意志）の口語形 解説：「仕うまつら」未然＋「ん」。「お仕えしよう」。

Q12. 「らん」を識別せよ。

月の都の人、今いかに住むらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「住む」終止＋「らん」（＝らむ）。「月の都の人は、今どう住んでいるのだろう」。

Q13. 「けん」を識別せよ。

我が祖、いかに生きけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「生き」連用＋「けん」。「私の祖はどう生きたのだろう」。

Q14. 「ん」を識別せよ。

春過ぎば、人皆嘆かん。

答え：「嘆かん」はむ（推量）の口語形 **解説：**「過ぎば」は上二段「過ぐ」未然形＋接続助詞「ば」（仮定）で、「ん」は付かない。「嘆かん」は四段未然「嘆か」＋推量「む」（口語形「ん」）。「もし春が過ぎたら、人は皆嘆くだろう」。

Q15. 「らん」を識別せよ。

いかなる宿世にあるらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「あ」（ラ変連体「ある」）＋「らん」（＝らむ）。「どのような宿世であるのだろう」。

Q16. 「けん」を識別せよ。

古き家、いかに栄えけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「栄え」連用＋「けん」。

Q17. 「ん」を識別せよ。

知る人ぞ知らん。

答え：む（推量）の口語形 **解説：**「知ら」未然＋「ん」。「知る人は知るだろう」。

Q18. 「らん」を識別せよ。

春や来たらん。

答え：らむ（現在推量・疑問）の口語形 解説：「来た」連用＋「らん」＋係助詞「や」。「春が来ているだろうか」。

Q19. 「けん」を識別せよ。

古典ありしけん頃。

答え：けむ（過去婉曲）の口語形 解説：「ありし」（過去連体）＋「けん」＋体言「頃」。「古典があったとかいう頃」。

Q20. 「ん」を識別せよ。

いざ参らん。

答え：む（意志・勧誘）の口語形 解説：「いざ」＋「参ら」未然＋「ん」。「さあ、参ろう」。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

連体形「ん」（体言修飾）、婉曲・仮定の用法。

Q21. 「ん」を識別せよ。

行かん人を待つ。

答え：む（婉曲・連体）の口語形 解説：「行か」未然＋「ん」体言「人」修飾。「行くような人を待つ」。

Q22. 「らん」を識別せよ。

都に春や来たらん。

答え：らむ（現在推量・疑問）の口語形 解説：「来た」連用＋「らん」。「都に春が来ているのだろうか」。

Q23. 「けん」を識別せよ。

昔の人もかく言ひけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「言ひ」連用＋「けん」。「昔の人もこう言ったのだろう」。

Q24. 「ん」を識別せよ。

雪降らん夜は寒からん。

答え：む（仮定・連体）の口語形 解説：「降ら」未然＋「ん」体言「夜」修飾。「雪が降るような夜は寒いだろう」。

Q25. 「らん」を識別せよ。

我が思ふ人、いかに過ぐすらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「過ぐす」終止＋「らん」。「私の思う人は、どう過ごしているだろう」。

Q26. 「けん」を識別せよ。

雪深き道を、いかに帰りけん。

答え：けむ（過去推量・原因）の口語形 解説：「帰り」連用＋「けん」。「雪深い道を、どう帰ったのだろう」。

Q27. 「ん」を識別せよ。

我れに任せん。

答え：む（意志）の口語形 解説：「任せ」（下二段未然）＋「ん」。「私に任せよう」。

Q28. 「らん」を識別せよ。

都の事、いかになりたらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**四段「なる」連用「なり」＋完了「たり」終止＋「らん」。「都の事はどうなっているのだろうか」。

Q29. 「けん」を識別せよ。

大臣、いかに思しけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「思し」（尊敬連用）＋「けん」。「大臣はどうお思いになったのだろうか」。

Q30. 「ん」を識別せよ。

あらん限り、励まん。

答え：む（仮定・意志）の口語形 **解説：**「あら」未然＋「ん」、「励ま」未然＋「ん」。「あらゆる限り、励もう」。

Q31. 「らん」を識別せよ。

鳥の声、聞こゆらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「聞こゆ」終止＋「らん」。「鳥の声が聞こえているだろう」。

Q32. 「けん」を識別せよ。

先代の人、何を後の世に残しけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「残し」連用＋「けん」。「先代の人は何を後の世に残したのだろうか」。

Q33. 「ん」を識別せよ。

我れ歌詠まんと思ふ。

答え：む（意志）の口語形 解説：「詠ま」未然＋「ん」。「歌を詠もうと思う」。

Q34. 「らん」を識別せよ。

春や来ぬらん、雪まだ消えず。

答え：らむ（現在推量・疑問）の口語形 解説：「来ぬ」（完了「ぬ」終止）＋「らん」。「春が来ているのだろうか」。

Q35. 「けん」を識別せよ。

古き世には、いかなる契りありけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「あり」連用＋「けん」。「古き世にはどんな約束があったのだろう」。

Q36. 「ん」を識別せよ。

言はんにはあらず。

答え：む（婉曲）の口語形 解説：「言は」未然＋「ん」。「言うようなことではない」。

Q37. 「らん」を識別せよ。

心づくしの秋風、いかに吹くらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「吹く」終止＋「らん」。「心づくしの秋風は、どう吹いているだろう」。

Q38. 「けん」を識別せよ。

人皆、いかにあきれけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「あきれ」（下二段連用）＋「けん」。「人々は、どんなにあきれたであろう」。

Q39. 「ん」を識別せよ。

山深くこもらん。

答え：む（意志）の口語形 解説：「こもら」未然＋「ん」。「山深くこもう」。

Q40. 「らん」を識別せよ。

都の月、今宵照らん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「照る」終止＋「らん」。「都の月は、今宵照っているだろう」。

Q41. 「けん」を識別せよ。

何ゆゑかかる事ありしけん。

答え：けむ（過去原因推量）の口語形 解説：「ありし」＋「けん」。「なぜこんな事があったのだろう」。

Q42. 「ん」を識別せよ。

仇を討たん。

答え：む（意志）の口語形 解説：「討た」未然＋「ん」。「仇を討とう」。

Q43. 「らん」を識別せよ。

何処にて宿借らん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「借る」終止＋「らん」。「どこで宿を借りているだろう」。

Q44. 「けん」を識別せよ。

いと心強くも侍りけんかな。

答え：けむ（過去推量・詠嘆）の口語形 解説：「侍り」連用＋「けん」＋「かな」。「とても心強かったことよ」。

Q45. 「ん」を識別せよ。

月見ん人は出で給へ。

答え：む（意志・婉曲・連体）の口語形 解説：「見」未然＋「ん」体言「人」修飾。「月を見ようとする人は出ていらっしやい」。

Q46. 「らん」を識別せよ。

我が宿に来鳴くらん鳥は何ぞ。

答え：らむ（現在推量・連体）の口語形 解説：「鳴く」終止＋「らん」体言「鳥」修飾。

Q47. 「けん」を識別せよ。

古の聖、いかに学びけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「学び」連用＋「けん」。「古の聖人は、どう学んだのだろう」。

Q48. 「ん」を識別せよ。

心強くあらんには。

答え：む（仮定）の口語形 解説：「あら」未然＋「ん」＋「には」。「心強くあるようには」。

Q49. 「らん」を識別せよ。

故里の事、いかにあるらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「ある」（ラ変連体）＋「らん」（＝らむ）。「故里の事はどうしているのだろうか」。

Q50. 「けん」を識別せよ。

古の友、いかに過ぐしけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「過ぐし」連用＋「けん」。「古の友はどう過ごしただろうか」。

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

軍記物語・狂言・近世文の頻出パターン。

Q51. 「ん」を識別せよ。

兵を率ゐて打ち向か**ん**。

答え：む（意志）の口語形 解説：「向か」未然＋「ん」。「兵を率いて打ち向かおう」。

Q52. 「らん」を識別せよ。

敵、すでに陣を布く**らん**。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「布く」終止＋「らん」。「敵はもう陣を敷いているだろう」。

Q53. 「けん」を識別せよ。

先陣はいかにかし**けん**。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「し」（サ変連用）＋「けん」。「先陣はどうしたのだろうか」。

Q54. 「なん」を識別せよ。

御身も無事におはせ**なん**。

答え：願望「なむ」の口語形 解説：「おはせ」未然＋「なん」。「お身体も無事でいらしてほしい」。

Q55. 「ん」を識別せよ。

こなたへ参ら**ん**かし。

答え：む（意志・勧誘）の口語形 解説：「参ら」未然＋「ん」＋「かし」。「こちらへ参りましょう」。

Q56. 「らん」を識別せよ。

あら、何の音すらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「す」終止＋「らん」。「あら、何の音がしているのだろう」。

Q57. 「けん」を識別せよ。

道中、いかに苦しみけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「苦しみ」連用＋「けん」。「道中、どんなに苦しんだろう」。

Q58. 「ん」を識別せよ。

我れ、命をも惜しまん。

答え：む（意志）の口語形 **解説：**「惜しま」未然＋「ん」。「私は命をも惜しまない（惜しもう）」。

Q59. 「らん」を識別せよ。

主君は今いづくにおはすらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「おはす」終止＋「らん」。「主君は今どこにいらっしゃるのだろう」。

Q60. 「けん」を識別せよ。

都を出でし時、いかに泣きけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「泣き」連用＋「けん」。「都を出た時、どんなに泣いたであろう」。

Q61. 「ん」を識別せよ。

言ふもあへぬ事も語らんものを。

答え：む（意志・推量・連体）の口語形 解説：「語ら」未然＋「ん」体言代用。「言うにも言えないことも語ろうものを」。

Q62. 「らん」を識別せよ。

いづくにてか宿らせ給ふらん。

答え：らむ（現在推量・尊敬と連結） 解説：「給ふ」終止＋「らん」。「どこでお宿りになっているだろう」。

Q63. 「けん」を識別せよ。

いかに心細く思ひけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「思ひ」連用＋「けん」。「どんなに心細く思ったろう」。

Q64. 「ん」を識別せよ。

御供せん人は名乗れ。

答え：む（意志・連体）の口語形 解説：「せ」（サ変未然）＋「ん」体言「人」修飾。「お供しようという人は名乗れ」。

Q65. 「らん」を識別せよ。

あはれ、誰がため衣を干すらん。

答え：らむ（現在原因推量）の口語形 解説：「干す」終止＋「らん」。「ああ、誰のために衣を干しているのだろう」。

Q66. 「けん」を識別せよ。

古の聖人、何を悟りけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「悟り」連用＋「けん」。「古の聖人は何を悟ったのだろう」。

Q67. 「ん」を識別せよ。

軍を起こさんためなり。

答え：む（意志・連体）の口語形 解説：「起こさ」未然＋「ん」体言「ため」修飾。「軍を起こすためである」。

Q68. 「らん」を識別せよ。

月いま西に傾くらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「傾く」終止＋「らん」。「月は今西に傾いているだろう」。

Q69. 「けん」を識別せよ。

何の宿縁にて生まれあひけん。

答え：けむ（過去原因推量）の口語形 解説：「生まれあひ」連用＋「けん」。「どんな宿縁で生まれ合ったのだろう」。

Q70. 「ん」を識別せよ。

いかなる事もせん。

答え：む（意志）の口語形 解説：「せ」（サ変未然）＋「ん」。「どんな事しましょう」。

Q71. 「らん」を識別せよ。

心ありてや見ゆらん。

答え：らむ（現在推量・疑問）の口語形 解説：「見ゆ」終止＋「らん」。「心があって見えているのだろうか」。

Q72. 「けん」を識別せよ。

古き世の人も同じく思ひけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「思ひ」連用＋「けん」。「古き世の人も同じく思ったのだろう」。

Q73. 「ん」を識別せよ。

雪解けて、春や立たん。

答え：む（推量・疑問）の口語形 **解説：**「立た」未然＋「ん」＋係助詞「や」。「雪が解けて、春が立つだろうか」。

Q74. 「らん」を識別せよ。

風、波を起こすらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「起こす」終止＋「らん」。「風が波を起こしているだろう」。

Q75. 「けん」を識別せよ。

我が祖父、何を思ひ伝へけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「伝へ」連用＋「けん」。「我が祖父は何を思い伝えたろう」。

Q76. 「ん」を識別せよ。

言ふも愚かならん。

答え：む（推量）の口語形 **解説：**「なら」（断定未然）＋「ん」。「言うのも愚かであろう」。

Q77. 「らん」を識別せよ。

海原はるかに波立つらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「立つ」終止＋「らん」。「海原はるかに波が立っているだろう」。

Q78. 「けん」を識別せよ。

古き恋、いかに終はりけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「終はり」連用＋「けん」。「古い恋はどう終わったろう」。

Q79. 「ん」を識別せよ。

死を恐れんや。

答え：む（推量・反語）の口語形 解説：「恐れ」（下二段未然）＋「ん」＋「や」。「死を恐れようか（いや恐れない）」。

Q80. 「らん」を識別せよ。

鶯の鳴く声、谷より聞こゆるらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「聞こゆ」終止＋「らん」。「鶯の鳴く声が谷より聞こえているだろう」。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

中世以降の文献・難関大頻出。

Q81. 「ん」を識別せよ。

何の用にも立たじ。捨てんものを。

答え：む（意志）の口語形 解説：「捨て」（下二段未然）＋「ん」。「何の用にも立たない。捨てよう」。

Q82. 「らん」を識別せよ。

月のおもしろき夜、誰が床に伏すらん。

答え：らむ（現在推量・連体）の口語形 解説：「伏す」終止＋「らん」。

Q83. 「けん」を識別せよ。

異国の入、何を見けん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 解説：「見」連用＋「けん」。「異国の人は何を見たろう」。

Q84. 「ん」を識別せよ。

弓矢の道に身を捧げん。

答え：む（意志）の口語形 解説：「捧げ」未然＋「ん」。「弓矢の道に身を捧げよう」。

Q85. 「らん」を識別せよ。

帝、御心痛め給ふらん。

答え：らむ（現在推量・尊敬）の口語形 解説：「給ふ」終止＋「らん」。「帝はお心を痛めていらっしゃるだろう」。

Q86. 「けん」を識別せよ。

義経、いかなる思ひにて落ち給ひけん。

答え：けむ（過去推量・尊敬）の口語形 解説：「給ひ」連用＋「けん」。「義経は、どんな思いでお落ちのびになったろう」。

Q87. 「ん」を識別せよ。

一人として知らん者なし。

答え：む（推量・婉曲・連体）の口語形 解説：「知ら」未然＋「ん」体言「者」修飾。「知るような者はいない」。

Q88. 「らん」を識別せよ。

故郷の親、今いかに我れを待つらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 解説：「待つ」終止＋「らん」。「故郷の親は、今どんなに私を待っているだろう」。

Q89. 「けん」を識別せよ。

業平の歌、いかにして詠み出だしけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「出だし」連用＋「けん」。「業平の歌は、どうして詠み出したろう」。

Q90. 「ん」を識別せよ。

軍の中に紛れ入らん。

答え：む（意志）の口語形 **解説：**「入ら」未然＋「ん」。「軍の中に紛れ込もう」。

Q91. 「らん」を識別せよ。

落人、いづれの里に隠れみるらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**上一段「みる」終止形「みる」＋「らん」。「らむ」はラ変型は連体形に接続するが、原則は終止形接続。「落人はどの里に隠れているのだろうか」。

Q92. 「けん」を識別せよ。

古き世の母、何を子に語りけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「語り」連用＋「けん」。「古き世の母は、何を子に語ったろう」。

Q93. 「ん」を識別せよ。

いかにかせん、ためらひ伏す。

答え：む（意志・疑問）の口語形 **解説：**「せ」（サ変未然）＋「ん」。「どうしたものか、ためらって伏せる」。

Q94. 「らん」を識別せよ。

暁、鶏鳴く頃、何思ふらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「思ふ」終止＋「らん」。「暁、鶏が鳴く頃、何を思っているだろうか」。

Q95. 「けん」を識別せよ。

物思ひに沈み、夜もすがら泣き明かしけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「明かし」連用＋「けん」。「物思ひに沈み、夜どおし泣き明かしたろう」。

Q96. 「ん」を識別せよ。

御代に二たびと逢はんにはあらず。

答え：む（推量・婉曲・連体）の口語形 **解説：**「逢は」未然＋「ん」体言代用。「御代に二度と逢えるようなことではない」。

Q97. 「らん」を識別せよ。

紅葉散る里に、人や住むらん。

答え：らむ（現在推量）の口語形 **解説：**「住む」終止＋「らん」＋「や」。「紅葉散る里に人が住んでいるだろうか」。

Q98. 「けん」を識別せよ。

古き世の人、いかに月を眺めけん。

答え：けむ（過去推量）の口語形 **解説：**「眺め」（下二段連用）＋「けん」。「古き世の人は、どんなに月を眺めたろう」。

Q99. 「ん」を識別せよ。

我れ、心を尽くして仕へん。

答え：む（意志）の口語形 **解説：**「仕へ」（下二段未然）＋「ん」。「心を尽くしてお仕えしよう」。

Q100. 「らん」を識別せよ。

春は花、秋は月、いつをかおもしろきらん。

答え：らむ（現在原因推量・疑問）の口語形 **解説**：「おもしろき」（連体）＋「らん」。「春は花、秋は月、いつをおもしろいと思っているのだろう」。

入試レベル /20

採点振り返り

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30
- 応用（Q51～Q80）： /30
- 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- **合計**： /100

8割（80点）以上で入試対応レベル。

あとがき

「ん」識別の核心： - 中世以降の **口語形** - 直前の活用形で「む」「らむ」「けむ」のどれか判別 - 接続の規則が乱れることがある（中世以降）

軍記物語・狂言・浮世草子で頻出。古典の各時代で文法が変化することを理解。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太
